子育ての「困った」をチャンスに

だだをこねたり、言うことを聞いてくれない子どもについイライラ…。
でも、そこには子どもの成長と発達のキーワードがあるみたい。
子育ての「困った」を「たのしさ」に変えてみませんか。

駄々こねには理由があります

ちいさな子どもは大人が見過ごしてしまうような環境の変化を敏感に感じ取ります。いつもの場所に違うものが置いてあること、置いてあるもののズレや、お風呂に入れてもらう時に頭からか、からだから洗うか、など細部に至るまで、いつもと同じでないと気が済みません。違うとなれば、突然火がついたように泣き出したり、駄々をこねたり、手がつけられない状態に。子どもが「同じ」にこだわるのは、道に迷わないようコンパスに頼るようなもの。子どもが不安にならないよう、この時期は「同じ」をこころがけて。

自分でやりたがるならやらせてみる

「自分でしたい」という自立への第一歩は１歳の誕生日前から。この頃に「汚れると面倒」「ちいさいからできない」と、大人がしてあげるばかりでは、「できない、やって」と言うだけで、自分からしようとしない子になってしまいます。もちろん、やらせても全然できないし、大人はイライラ、ハラハラ。つい手や口を出してしまいますが、それでは子どもが成長するせっかくの機会をひとつ失うことにも。子どもが自分でできることは何かをよく見定めることが大切です。

子どもが自分でできるような工夫を

身のまわりのことは、早くひとりでできるようになってほしい。そのためには、子どもがうまくできるようなちょっとした工夫を。

・衣服/シンプルで飾りの少ないデザインのものを。Tシャツは首まわりがゆったりして、頭の出し入れがしやすいものなら自分で着ることができます。着る服は勝手に決めず、ふたつくらいの選択肢の中から子どもに選んでもらえば、ひとりで着ようとします。

・おもちゃ/一度にたくさん出さないで、6～8 個を手の届く棚に置いてあげます。ここに戻すということがわかってきたら、自分でおもちゃを元に戻すようになります。

子どもの自由に任せていて、本当に大丈夫？

「自分で選ぶ」自由のあることが生きていくうえでも大事なことです。

まず子どもにとって大切なのは「自分で選ぶ」という自由です。ここでいう自由とは、やりたい放題することではありません。

保育園では、登園したら子どもが自分でやりたいことを決めて活動します。自分で選んだことをやり終えたら、それらを元に戻す責任が伴います。それから、他の子がお仕事をしているときは、横から手を出さず、終わるのを待たなくてはなりません。ここに制限があります。

子どもは、自分で選んだものは何度でもくり返しやります。くり返しやることで、子どもは自分で発見をします。子どもの興味は成長と共に変化します。大人はああしろ、こうしろと介入することよりもそれを見守ることです。

参考：月刊クーヨン別冊　子どもの自主性が育つモンテッソーリの子育て